



食品リサイクル堆肥の使用例の紹介

元肥として

植物の種をまいたり、植えたりするときに、あらかじめ与えておく堆肥のことです。一般的には植え付けの2～3週間前に用土に混ぜておきます。施肥量は、1坪(3.3㎡)に10kg程度を目安に使用してください。

追肥として

栽培途中で与える堆肥です。植物の根に直接当たらないように振りかけてください。

施肥量は、畑などに使用する場合、1坪に10kg程度を目安に使用してください。植木鉢やプラントボックスの場合、通常5号鉢(2ℓ)に10g(大さじ2杯)を目安にご使用ください。

その他の使い方

▷生ごみ・ごみ置き場などの消臭

生ごみやごみ置き場の床などに、直接数回散布すると、バクテリアの働きによって嫌な臭いが軽減されます。

▷ペット(犬小屋・猫砂・鳥かごなど)の消臭
犬小屋・猫砂・鳥かごの中や周りに直接数回散布すると、臭いが軽減されます。

▷浄化槽などの消臭

浄化槽内に直接散布すると、臭いが軽減されます。

※配布している堆肥は、5kg袋と10kg袋のみになります。小分けでの配布は行っておりませんので、ご了承ください



食品リサイクル堆肥の無料配布

小・中学校や家庭で使用している生ごみ処理機器から生成された生ごみ乾燥物は、市で回収し、民間堆肥製造施設で食品リサイクル堆肥を製造し、希望する市民や農家に配布しています。

時毎週金曜日午後1時～2時、毎月第2火曜日午後2時～3時30分(祝日、年末年始を除く)

所リサイクル事業所裏(中町3-19-16)

■配布量1回30kgまで(5kg単位で配布)

※市内在勤・在学の方にも配布しています



3Rでいちばん大切なことはリデュース

ごみを減らすキーワードは、「3R(スリーアール)」です。3Rとは、「リデュース(Reduce)=発生抑制、リユース(Reuse)=再使用、リサイクル(Recycle)=再生利用」という言葉の頭文字の“3つのR”をとって作られた言葉です。

その3Rでいちばん大切なことは、リデュースです。まずは、リデュースできないかを考え、次に、使えるものは何度も再使用するリユース、その次に、分別を徹底し資源になるものを捨てずに再生利用するリサイクルをすることがとても大切です。

1 Reduce (リデュース)

発生抑制

ごみになるものを元から減らすこと

2 Reuse (リユース)

再使用

使えるものは何度も使うこと

3 Recycle (リサイクル)

再生利用

資源になるものを捨てずに再生利用すること

くるカメくんと一緒に取り組もう！みんなでできるリデュース

生ごみは絞って、水切りを

生ごみには大量の水分が含まれます。ごみ出し前に、水切りをすることで燃やすごみの減量になります。



買い物はマイバック持参で

レジ袋の削減や過剰な包装もいらなくなります。



マイボトル・マイはしを持ち歩く

割り箸やペットボトル、缶のごみが出なくなります。



余分に買いすぎない

食べ残しはごみになります。量り売りやばら売りで必要な分だけ買いましょう。



株式会社いなげやから市立小学校に環境備品を寄附していただきました

いなげやでは、ペットボトルの自動回収機を店頭で設置し、市民の皆さんの協力のもと、ラベルとキャップの分別回収を行うことで、分別意識の向上とリサイクルの推進に取り組んでいます。また回収したペットボトルは1本0.2円に換算し、地域へ還元する取り組みも行っています。

このたび、市立小学校3校(第一小学校、第四小学校、緑小学校)に、環境備品として、プランター・移植ごて・熱中症対策温湿計を寄附していただきました。

市では、いなげやの市内3店舗(小金井貫井南店、小金井本町店、いな21小金井中町店)をリサイクル推進協力店に認定しています。



緑小・所校長(左)といなげや小金井本町店・関根店長(右)